

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立義務教育学校八束学園前期課程)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○表現を工夫して書く問題が県平均より正答率が高くなっている。 ○ローマ字のつづりが理解できていて、県平均よりも14パーセント高くなっている。 ●複数の文章を比べて読むことに課題が見られる。 ●情報量や文章量が多くなると全部読み取ることができない。 ●資料の工夫や発言の意図を理解することができていない。	・楽しく読書することはできているが、表現に注目して読んだり、複数の資料を比較しながら読んだりすることを意図的に取り入れる。 ・読書する習慣を身につけ、読書量を増やすようにする。
	算数	○平均正答率は県平均を3.4%上回っている。 ○5学年で学んだことは高い正答率。 ●数と計算領域で正答率が低い問題が見受けられる。 ●合同・割合・分度器操作の問題の正答率が低い。 ●無回答率が高い。	・計算会等の時間で、小数計算や分数計算を出題し基礎的な計算力を高める。 ・4年生までの学習内容を復習する時間をつくる。 ・分度器や三角定規などの活用場面を多くして、角度や辺などを体感的に理解できるようにする。
6年	国語	○5学年で学習した漢字の読みは正答率が高い。 ○無回答率が低く、最後まで取り組んだことがわかる。 ○ローマ字を書くことが県平均を10%近く上回っている。 ●資料をもとに情報を整理しながら書くことに課題が見られる。 ●条件に合わせて文章をまとめることができていなかった。	・条件作文や資料をもとに情報を整理しながら書く活動を意図的に取り入れる。
	算数	○平均正答率は県平均を約5%上回っている。 ○計算力をつけていく取り組み(計算会やぐんぐん算数)により、数と計算の領域は理解と定着がみられる。 ○無回答率が低い。 ●発展・活用問題で説明する力が弱く、無回答率も上がっている。 ●図形や割合の理解が不十分。	・図形の問題は、角度や面積の問題を何度も反復練習して解き方の定着を図る。 ・具体物を用いて操作活動を増やすことで図形のイメージをつかみやすくする。 ・文章題の読み取り練習や自分の考えを説明する時間をつくる。

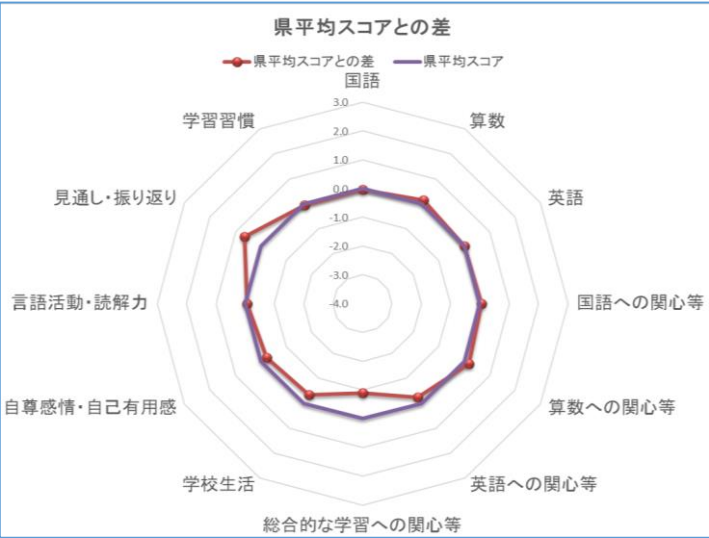
(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

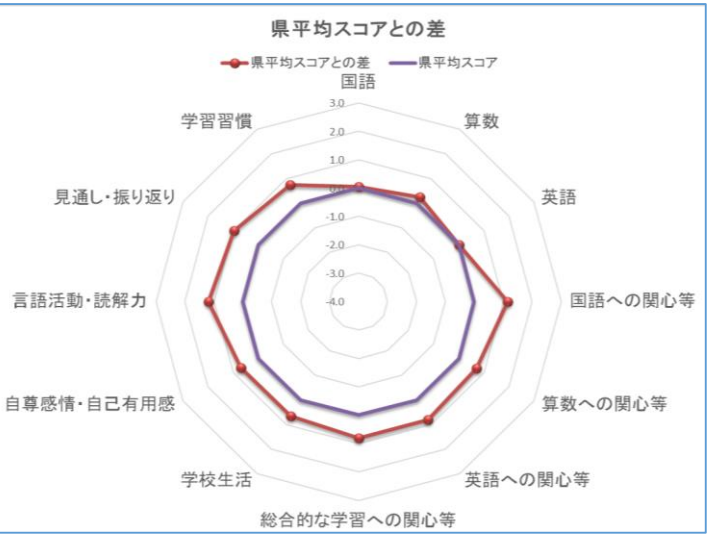
		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業の中では、学習の目標(めあて、ねらい)とまとめを示し、それをまとめる授業が丁寧に行われている。 ●総合的な学習への関心が低いなど、自主的・主体的に課題を見つけ学ぶことが苦手な傾向がみられる。	・児童が、更に興味・関心をもって取り組めるような課題を設定し、見通しをもち意欲的に取り組めるような学習活動を工夫する。
	家庭学習に関わる事項	○宿題等、与えられた学習はきちんとできる。 ●予習・復習など、自分の弱み・強みを考えて取り組むことが苦手な子がいる。 ●一部ではあるが、ゲーム・メディアへの依存が高く、学習時間が削られている。	・個々にあった家庭学習の取り組み方について、自分で選択し、定着につながる方法を見つけられるよう支援する。
6年	授業改善に関わる事項	○授業では、話し合い活動をよく行い、自分の考えを発表する機会も多い。 ○授業では、問題解決的な活動を多くし、皆で協力してやり遂げたという達成感を感じている。 ○学習規律が、きちんと守られている。	・引き続き、児童一人ひとりの実態と抱える困難さ、原因を考慮したうえで支援を考え、誰にとっても分かりやすい授業を考えていく。
	家庭学習に関わる事項	○地域や社会の問題に関心があり、積極的に地域の行事に参加している。 ●家で授業の予習・復習や、自分で計画を立てて勉強する児童がやや少ない。	・引き続き、自主学習の方法・内容、限られた時間の使い方等についての指導を積み重ねる。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	62	58
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 35 人

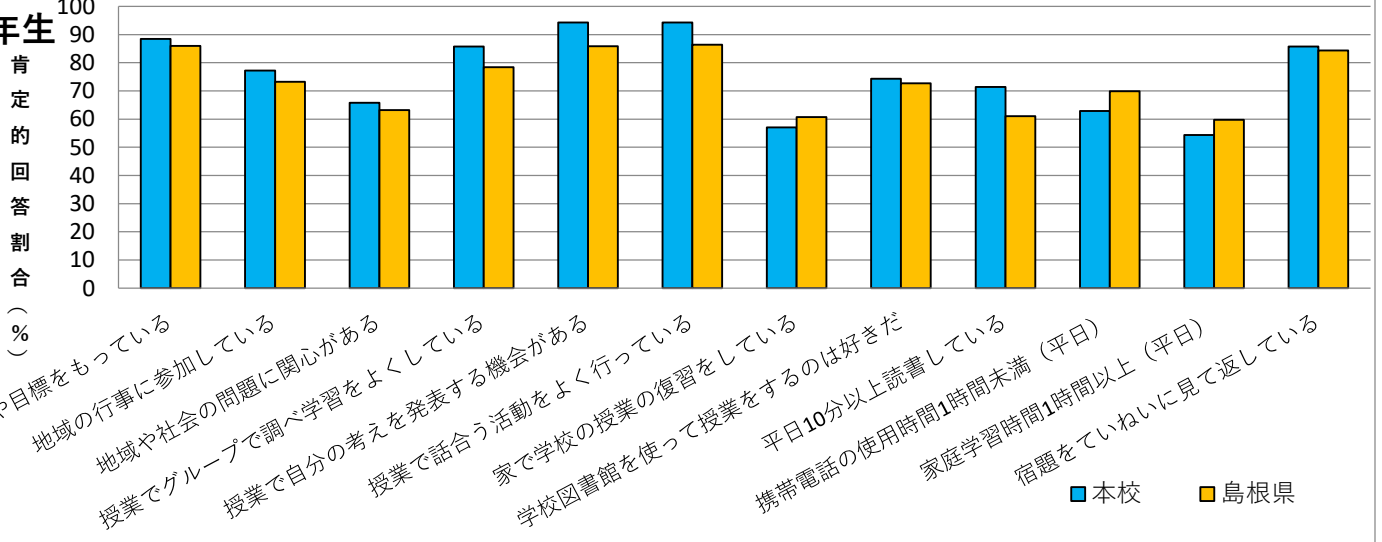
各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	68	64
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 42 人

5年生



6年生

